

実りの秋を終えて

副校長 大賀 教晶



運動会、音楽会、遠足、社会科見学など様々な行事が行われ、大口台小学校では豊かな実りの秋になりました。運動会、音楽会では、どの学年の子どもたちも自分たちの発表に自信をもって取り組んでいました。地域・保護者の皆様のご協力により、参観の約束やルールなどがよくなったという声をたくさん聞くことができました。また後片付けやぐちっこ祭りでは地域・PTAの方々が学校を支えている姿をたくさん見せていただきました。本当にありがとうございました。



本物に触れることの喜び



私は今年の夏休み期間に、KCJグループ キッズニアで短期企業派遣研修を受けました。キッズニアは子どもが職業体験をすることができ、内容がファンタジーよりもリアリティを重視している点、娯楽性よりも子どもの学習機会を考えている点において日本の中でも有数のテーマパークです。職業を通して、子どもたちに本当の学習と楽しみを経験できることを企業理念としています。しかし「私たちは、キッズニアをディズニーランドにしたいわけでも、USJと競わせる気もありません。キッズニアの一番の脅威は学校です。」テーマパークの営業部長が言いたかったことはどのようなことだったのでしょうか。11月にその答えを実感させてもらいました。



大口通商店街にて3年生がお店体験をしました。1組が11月19日、2組が20日に分かれて行いましたが、どのお店を回っても、学校にいる時よりも緊張し、真剣な表情でした。レジ打ちをしたり、値段付けをしたり、品物を並べたり、お茶の重さをはかったり、和菓子の箱詰めをしたり、接客をしたりとさまざまな活動に取り組んでいました。当日体験させてもらう前に、お店にインタビューを行なって、準備をしました。また当日のお客が増えるようにポスターを作って商店街に貼ってもらったり、宣伝用の文章をパソコンで打って学校のHPに載せたりしました。

また自分たちで作ったスタンプラリーを使用させてもらい、お客さんに自作のシールを配っていました。

学校に戻ってきた子どもたちはとても満足そうにしている、給食中もずっとお店で行っていたことを話し合っていたそうです。本物のお客さん、本物の商品、本物の緊張と喜び、学校の中では得られない本物の職業体験がそこにはあったのです。それには子どもたちの努力だけでなく、商店街のお店の方々の協力があってこそだと思います。これからも大口台の子どもたちにテーマパークにも負けない素晴らしい教育環境を与えていただけたらと思います。



12月には人権週間があります。人との違いを豊かで幸せな関係にすることができるにはどうしたらよいか、子どもたちと考えていきたいと思っています。6日の人権講話では盲特別支援学校の福島副校長から、特別支援学校についての話をうかがいます。